

(Japan Skipjack tuna Society)

平成 2 8 年 度

通 常 総 会 議 案 書

*と き 平成 2 8 年 7 月 1 6 日 (土) 1 1 時 0 0 分～

*と ころ 高知共済会館 3 階 大ホール「桜」

高知市本町 5 丁目 3-20

TEL : 088-823-3211

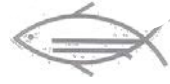
日 本 カ ツ オ 学 会 事 務 局

〒 7 8 0 - 8 0 7 3

高知市朝倉本町 2 丁目 1 7 - 4 7 高知大学 地域連携推進センター内

TEL : 088-844-8734 FAX : 088-844-8556

E-mail : katsuo@kochi-u.ac.jp [http : www.katsuo-gakkai.jp](http://www.katsuo-gakkai.jp)



(Japan Skipjack tuna Society)

通 常 総 会 次 第

1. 開 会

2. 会 長 挨 拶

3. 議 長 選 出

4. 議事録署名人指名

5. 議 事

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告について・・・ P.1

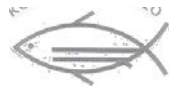
第 2 号議案 平成 27 年度収支決算について・・・ P.6

第 3 号議案 平成 28 年度事業計画(案)について・・・ P.8

第 4 号議案 平成 28 年度収支予算(案)について・・・ P.10

第 5 号議案 その他

6. 閉 会



(Japan Skipjack tuna Society)

第1号議案

平成27年度事業報告

1. 概況報告

日本カツオ学会は、カツオに興味や関心を持つ、あらゆる人々が集い、各種の情報交換をはじめ、相互の交流と連携をもとに、調査研究を継続して行う機会、協働の図れる場づくりを目指して、産学官からなる発起人のもとに平成23年1月8日 高知県黒潮町で誕生した。

本学会は、会費収入を主たる財源としていることから、その後、徐々に発起人や関係自治体などを中心として、会員確保の活動を開始するとともに、カツオに関係する企業群にも本学会への参画について声掛けを進めて行った。

この結果、現状では(平成28年3月末)、個人会員134名、団体会員34団体、賛助会員5団体の会員登録を得るまでになっている。

「会報誌」の発行については、10月に1回発行を行った。

2. カツオフォーラム

本年度の中心事業として「2015 カツオフォーラム in 気仙沼」を位置づけ、宮城県気仙沼市他の多大な御尽力を得て、平成28年1月30日(土)に宮城県気仙沼市サンマリン気仙沼ホテル観洋を会場として、下記のプログラムで参加者約200名の参加を得て盛会裏に開催できた。

また、フォーラムを受け、気仙沼宣言が提言された(詳細は4頁)。

記

①. 基調講演Ⅰ

「黒潮の果てのカツオ漁」

東北大学災害科学国際研究所教授 川島 秀一 氏

②. 基調講演Ⅱ

「世界のカツオ資源・生産・消費～中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)におけるカツオをめぐる議論～」

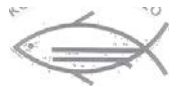
水産庁資源管理部参事官 神谷 崇 氏

③. パネルディスカッション

テーマ「危機的なカツオをめぐる諸情勢、今、求められるもの」

コーディネーター

(国研)水産総合研究センター理事長、日本カツオ学会顧問 宮原 正典 氏



(Japan Skipjack tuna Society)

パネリスト

日本かつお・まぐろ漁業協同組合監事、旭漁業（株）代表取締役社長
市田 恵八朗 氏
一般社団法人海外まき網漁業協会専務理事 本多 実 氏
一般社団法人全国近海かつお・まぐろ漁業協会代表理事専務
納富 善裕 氏
北部太平洋まき網漁業協同組合連合会代表理事会長
成子 隆英 氏
気仙沼鮮魚仲買組合組合長 村田 憲治 氏
気仙沼魚市場買受人協会理事長 阿部 泰浩 氏

④. 気仙沼宣言

3. カツオセミナー

カツオフォーラムと異なり、学術関係者やカツオに関係する企業の方々の発表の場として、カツオセミナーを位置づけ、第4回「2015 カツオセミナーin 高知」を、平成27年7月11日（土）、高知大学朝倉キャンパス メディアの森・メディアホールを会場に開催した。下記のプログラムで、研究者や水産関係者、食品産業従事者等、約65名が参加を得て、盛会裏に開催できた。

記

①. 基調講演

「農産物の機能性解明と新たな機能性表示制度」

農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所食品機能研究領域長

山本 万里 氏

②. 特別講演①

「かつお節の栄養機能について」

マルトモ(株) 常務執行役員 開発本部長

土居 幹治 氏

③. 特別講演②

「鰹節に含まれる栄養・機能性成分の瞬時分析～DHA, EPAを例に～」

東京海洋大学 名誉教授

和田 俊 氏

④. パネルディスカッション 座長：日本カツオ学会 副会長 受田 浩之 氏

パネリスト

農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 食品機能研究領域長

山本 万里 氏

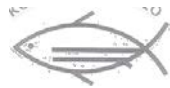
マルトモ(株) 常務執行役員 開発本部長

土居 幹治 氏

東京海洋大学 名誉教授

和田 俊 氏

⑤. 一般講演



(Japan Skipjack tuna Society)

座長：日本カツオ学会 副会長、(株)FBT プランニング 代表取締役社長
久塚 智明 氏

「カツオたたき中のビタミン B6 含有量及び組成」

高知大学地域連携推進センター 八木 年晴 氏

「懸濁結晶法凍結濃縮装置を用いた液体だしの濃縮」

高知県工業技術センター 森山 洋憲 氏、下藤 悟 氏

(株)垣内 泰泉寺 雄三 氏

高知工科大学 竹内 悠規 氏、松本 泰典 氏

4. 役員会

平成 27 年度通常役員会は、高知市にて平成 28 年 3 月 31 日（木）17:00 から開催。

協議事項としては、

- ① 平成 27 年度事業報告について
- ② 平成 27 年度収支決算報告（見込み）について
- ③ 平成 28 年度事業計画(案)について
- ④ 平成 28 年度収支予算(案)について
- ⑤ その他

以上を協議し、通常総会へ諮る予定。

5. 会報誌の発行

「会報誌」の発行は、本学会を広く広報するとともに会員確保の一助とするために、当初より計画して検討してきた。

10月の1回の発行となった。

なお、それぞれの会報誌の概要は次のとおりである。

日本カツオ学会会報（第5巻・第1号）の概要・・・10月発行

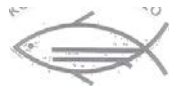
- ① 日本カツオ学会の活動方針
- ② 日本カツオ学会平成 27 年度通常総会開催報告
- ③ 「2015 カツオセミナー in 高知」開催報告
- ④ 「2014 カツオフォーラム in 中土佐」開催報告 中土佐宣言
- ⑤ 【新着情報・カツオの広場】

「第5回枕崎カツオマイスター検定」試験 開催案内

6. 共催・後援等

「第5回枕崎カツオマイスター検定」を計画している枕崎カツオマイスター検定推進協議会(会長：枕崎市長)から要請があり昨年に引き続き、共催した。

認定試験：平成 27 年 11 月 7 日（土）・8 日（日）



(Japan Skipjack tuna Society)

気仙沼宣言

我が国の漁船漁業は長期的な漁獲量の減少、水産物の消費・価格の低迷、船の老朽化や乗組員の高齢化、後継者不足などの課題が山積しており、このままの状況が続けば漁業や関連産業は勿論、水産物を基幹産業とする地域へも大きな影響を及ぼしかねない状況となっている。

カツオ漁業についても同様の危機的状況であることに加えて、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)の大筋合意など、自由化が加速する中で、他の水産物や畜産物との競争に加えて、資源保存に反する違法、無報告、無規制(IUU)な漁獲物との不当な競争にまでさらされている。

このような状況のもと、2015カツオフォーラム in 気仙沼が、日本カツオ学会及び気仙沼市カツオフォーラム実行委員会主催のもと、1月30日に気仙沼市で開催され、カツオを漁獲する釣り、巻網の各団体や流通・加工の関連産業、水産都市の自治体などが一堂に会し、活発に議論を行った。

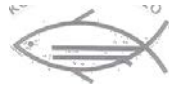
我が国のカツオ漁業者及び関連産業は、適正な資源管理によるカツオ漁業の存続を図るため、引き続き一体となってコスト削減や生産体制の見直し、代船建造や乗組員の確保など最大限の自助努力を行い、この活動を継続していく考えであり、フォーラムの内容を次の3項目に取りまとめ、気仙沼宣言とし、併せて中央要望を行うこととする。

1. カツオ資源保全と安定操業のための体制整備

- (1)カツオについては、赤道域における高い漁獲が資源の北方への回遊量を減少させていることから、中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)において、外国の大型まき網漁業に対する管理措置の強化と島嶼国による例外措置の乱用防止を早急に講じること。
- (2)漁業外交を積極的に展開することによって、安定的な操業機会を確保すること。
- (3)上記(1)及び(2)を促進・補完するために必要な漁業協力及び試験研究予算を確保すること。
- (4)地域漁業管理機関(RFMO)の資源管理措置に違反したカツオの輸入防止措置やEU及び米国市場で排除されたIUU漁獲物が日本市場へ流れ込むことを阻止するための法整備を行うこと。

2. カツオ漁業経営の維持と乗組員確保対策

- (1)カツオ漁業の次世代への継承のため、もうかる漁業創設支援事業やがんばる漁業復興支援事業、その他操業の効率化、漁業経営についての支援の継続・拡充を図ること。
- (2)乗組員の育成・確保のため、新規就労者や既就労者への支援(初心者訓練、海



(Japan Skipjack tuna Society)

事資格等取得への助成や外国人技能実習制度における実習期間の延長等)を継続・充実すること。

3. カツオ関連産業と水産都市の維持

カツオ漁業の港町は黒潮に沿って交流を重ねた独自の伝統・文化が形成されると共にカツオを中心とした水産加工、流通業並びに関連産業が発達している。カツオは日本を代表する魚として様々に利用されており、今後も新たな利用法の拡大が期待される。加えて和食はユネスコの世界遺産に登録され日本型食生活が注目されていることから、加工品の輸出も含め、国内外におけるカツオ消費の拡大に対する取り組みを支援すること。

以上、宣言する。

平成 28 年 1 月 30 日

日本カツオ学会

気仙沼市カツオフォーラム実行委員会

【収入の部】

費目	予算額	決算額	増減(△)額	説明
1. 会費	610,000	334,000	△ 276,000	
個人会員	150,000	114,000	△ 36,000	38件 × 3,000円 = 114,000円
団体会員	280,000	190,000	△ 90,000	19件 × 10,000円 = 190,000円
賛助会員	180,000	30,000	△ 150,000	1件 × 30,000円 = 30,000円
2. 雑入	14,863	23,096	8,233	
雑入	14,863	23,096	8,233	預金、金利他 23,096円
3. 繰越金	625,137	625,137	0	
前年度繰越金	625,137	625,137	0	前年度繰越し金 625,137円
合計	1,250,000	982,233	△ 267,767	

【支出の部】

費目	予算額	決算額	増減(△)額	説明
1. 事業費	730,000	700,240	△ 29,760	
総会費	20,000	0	△ 20,000	
カツオセミナー費	200,000	342,040	142,040	7/11:カツオセミナー講師旅費 342,040円
カツオシンポジウム費	300,000	300,000	0	カツオフォーラムin気仙沼:実行委員会補助金 300,000円
広報費	60,000	58,200	△ 1,800	学会HP年間ランニング費用 58,200円
会報費	150,000	0	△ 150,000	
2. 事務局費	63,000	51,082	△ 11,918	
事務経費	63,000	51,082	△ 11,918	振込手数料 7,776円 会報発行に伴う通信運搬費 外 43,306円
3. 予備費	457,000	0	△ 457,000	
予備費	457,000	0	△ 457,000	
合計	1,250,000	751,322	△ 498,678	

歳入歳出決算

【収入】

982,233 円

【支出】

751,322 円

= 230,911 円

を翌年度へ繰り越す。

監 査 報 告 書

平成27年度日本カツオ学会の会計監査の結果を下記のとおり報告いたします。

1 監査年月日 平成28年 5月 24日

2 監査結果

平成27年度 日本カツオ学会の収支決算について監査したところ、会計諸帳簿・証票書類等、いずれも正確にかつ適正に処理され不都合な点を発見せず、正当なものと認めたので報告します。

平成28年 5月 24日

監事 文野喜文 

監事 増崎勝敏 



平成28年度事業計画(案)

日本カツオ学会は、平成23年1月8日の発足以来、5年目を迎え、カツオフォーラム、カツオセミナーを開催し、カツオ学会関係者並びにカツオ産業関係者の皆様が本学会活動を通じて、カツオの資源・経済・社会・文化など多様な価値を問い直すことを念頭に、次のとおり事業展開を行う。

1. 「日本カツオ学会 平成28年度カツオセミナー&フォーラム ～カツオ資源の管理方針を考える～」の開催

カツオフォーラムとカツオセミナーを融合した、学術関係者や企業人からの情報発信の場として開催

- 1) 日 時：平成28年7月16日(土) 13時から
- 2) 場 所：高知共済会館(高知市本町5丁目3-20)
3階 大ホール「桜」

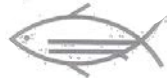
3) 概 要

- ① 開会の挨拶：日本カツオ学会 会長 若林 良和 氏
高知県水産振興部 副部長 近藤 雅宏 氏
- ② 基調講演①：神谷 崇 氏
(水産庁 増殖推進部 漁場資源課長)
- ③ 基調講演②：杉本 信幸 氏
(味の素(株) グローバルコミュニケーション部
PR・CSRグループ シニアマネージャー)
- ④ 特別講演：竹内 太一 氏
(土佐料理 司 代表取締役社長)
- ⑤ 一般講演：福田 忠弘 氏
(鹿児島県立短期大学 教授)
- ⑥ 総合討論
- ⑦ 交流会：高知市内にて予定

2. 国土交通省・広域的地域間共助推進事業『「カツオがつなぐ絆」～黒潮ネットワークによる広域的地域間共助～』の展開

3. 会員の確保

地域・領域・学問・立場など様々なレベルを超えて、つむぎ合うために、全国のカツオに興味や関心を持つ多くの人に参加を呼び掛け、学会の発展を



(Japan skipjack tuna Society)

目指す。

また、年度の切り替え時期には、最も多い個人会員の人事異動などを考慮して、関係機関においては、会員の維持・確保に向けた対応を積極的に行っていく。

4. 恒常的事業

(1) 日本カツオ学会ホームページの充実

平成23年9月に立ち上げた本学会のホームページの充実を図るとともに、会員相互の情報交換の場として活用、展開していく。

(2) 日本カツオ学会会報誌の発行

本学会活動を広く広報し周知を図るために、引き続き会報誌を発行する。発行回数は3回を目標とする。

(3) 役員会及び企画委員会と編集委員会の開催

必要に応じて、臨時役員会や両委員会の開催を行う。

特に、企画委員会と編集委員会にあっては、メール会議等を活用して各委員に周知を図りながら、意見集約を行い、より多くの意見が結果に反映できるように対応していく。

第4号議案

平成28年度 日本カツオ学会収支予算書（案）

収入の部

単位:円

費目	前年予算額	予算額	増減額	説明
1. 会費	610,000	462,000	△ 148,000	
個人会員	150,000	132,000	△ 18,000	44人 × 3,000円 = 132,000円
団体会員	280,000	240,000	△ 40,000	24団体 × 10,000円 = 240,000円
賛助会員	180,000	90,000	△ 90,000	3団体 × 30,000円 = 90,000円
2. 雑入	14,863	23,089	8,226	
雑入	14,863	23,089	8,226	預金、金利他
3. 繰越金	625,137	230,911	△ 394,226	
前年度繰越金	625,137	230,911	△ 394,226	
合計	1,250,000	716,000	△ 534,000	

支出の部

単位:円

費目	前年予算額	予算額	増減額	説明
1. 事業費	730,000	558,200	△ 171,800	
総会費	20,000	20,000	0	平成28年7月中旬開催予定
カツオセミナー費	200,000	200,000	0	平成28年7月中旬開催予定
カツオシンポジウム費	300,000	250,000	△ 50,000	フォーラム補助 250,000円
広報費	60,000	58,200	△ 1,800	HP維持費 58,200円
会報費	150,000	30,000	△ 120,000	会報誌発行(10,000円×3回)
2. 事務局経費	63,000	78,000	15,000	
事務経費	63,000	78,000	15,000	通信運搬費 20,000円 監事旅費(1人分) 13,000円 ・土佐清水～黒潮町(1泊2日)13,000円 消耗品等 45,000円
3. 予備費	457,000	79,800	△ 377,200	
予備費	457,000	79,800	△ 377,200	
合計	1,250,000	716,000	△ 534,000	